

# 大分県新長期総合計画策定県民会議 第3回安心部会 委員発言要旨

日時：令和6年2月21日(水)10:00～12:25

場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

No.	項目	発言要旨
1	安心1 (1) 強靱化	・木造住宅の耐震化が大事。個人の自己資金の多寡に左右されない形で、広く県内の耐震化を進めていってほしい。〔能登半島地震を踏まえたご意見〕
2	安心1 (2) 防災	・観光県である本県の強みを活かして、災害時要配慮者の避難先としてホテルを確保する取組を検討してはどうか。
3	安心1 (3) 防災	・道路啓開状況等により一般ボランティアの被災地入りを断らざるを得ないような場合、例えば、炊き出し等の支援をどう行うか選択肢を持っておくべき。そうでなければ、避難者が大変な思いをする。〔能登半島地震を踏まえたご意見〕
4	安心1 (3) 防災	・専門ボランティアやNPOなど外部からの支援を円滑に受け入れるには、連携や情報共有を行う拠点が必要となる。受援体制を平時から整えておくべき。〔能登半島地震を踏まえたご意見〕
5	安心1 (3) 防災	・避難所運営については、行政以外にやってもらう体制づくりや訓練が必要。行政は行政にしかできないことに注力してほしい。〔能登半島地震を踏まえたご意見〕
6	安心1 (3) 防災	・目標指標に「個別避難計画の作成率」を追加してはどうか。災害時要配慮者の個別避難計画策定が努力義務化されたため、できるだけ早く達成させる必要がある。
7	安心1 (3) 防災	・消防指令センターの一元化については、例えば、周辺部でタイムロス等が起きるなど、一元管理によるマイナスの面が出ることがないように、丁寧な運用をしてもらいたい。
8	安心1 (4) 感染症	・主な取組①の「感染症対策の平時からの連携強化」には、高齢者施設や介護関係者も加えてもらいたい。
9	安心2 (1) 温暖化	・温室効果ガスの排出抑制や吸収源対策に係る指標はあるが、取組のもう1つの柱である気候変動適応策に係る目標指標が掲出されていない。当該指標も必要なのではないか。設定が難しいと思うが検討してほしい。
10	安心3 (1) 子育て	・前回の部会で提案したような「こどもを主体、主語に据えた計画」になっており、賛同する。こどもの育ちを支える保育人材の確保と質の確保のため、引き続き保育現場の処遇改善についてはお願いしておきたい。
11	安心3 (1) (2) 子育て	・男性向けの家事・育児講座は、十分に広報し、子育て意識の低い父親や講座に無関心な父親の参加を促すことが大事。また、中小企業で働く男性の育休取得が促進されるよう、引き続き企業向けのセミナー等は継続してもらいたい。 ・加えて、こうした意識啓発・教育は、学校教育の段階から行われることが望ましいと考えている。
12	安心3 (1) 子育て	・「共育て」の実現には、企業理解が欠かせないが、中小企業でも「共育て」の実現が可能となるような方法を示すなどの支援が必要ではないか。
13	安心3 (1) 子育て	・主な取組③の「女性が仕事やキャリアの形成と子育て等のライフイベントを両立できる環境づくり」は、女性に特化することなく、男性も対象にした方がよいのではないか。両親ともにライフイベントを両立できる環境づくりが大事だと思う。
14	安心3 (1) 子育て	・子育てしやすい社会づくりの中に、外国にルーツのある子どもたちを支援する記載がないことが気になる。「外国につながる子どもたちの就学前ガイダンス、高校進学ガイダンスの実施」といった記載を追加してもらいたい。

15	安心3 (1) (5) 子育て	・地域によっては、低学年にもかかわらず放課後児童クラブに入れなくなることがある。また、こども食堂の果たす役割が大きくなっている。こどもの居場所づくり・確保は重要。
16	安心3 (1) 子育て	・目標指標に「男性の育児休業取得率」を掲げることは適切だと思うが、これに「育児の取得期間」や「男性の育休後の家事・育児時間」を加えてはどうか。
17	安心3 (4) 児童虐待	・児童相談所で虐待対応にあたる職員は高い専門性が求められる。そうした人材を安定的に育成・確保していくため、人事異動の兼ね合いはあるだろうが、希望する職員がより長期的に児童虐待分野に従事できる仕組みがあるとよい。
18	安心3 (4) 児童虐待	・虐待事案には、児童の発達特性や保護者の精神疾患等が根底にある場合がある。取組に「精神科医師に随時相談できる体制づくり」とあるが、できれば精神科医が児童相談所に所属できる仕組みがあるとよい。
19	安心3 (4) 児童虐待	・児童相談所の対応力強化には賛同するが、もう一步踏み込んで、例えば、虐待死の発表会見ゼロの大分県を目指すことを掲げるなど、県民に届くような表現、意思表示をするとよりよいと思う。
20	安心3 (4) 児童虐待	・児童虐待の早期対応には、関係機関との連携強化が重要であることから、目標指標に「虐待通告件数に占める関係機関からの通告件数」を加え、それを伸ばしていくという考え方もあると思う。
21	安心4 (2) 医療	・目標指標に「自宅等における看取り数」を掲げているが、この「等」に高齢者施設を含めてはどうか。施設での看取りを希望される方も増えてきている。
22	安心4 (3) 介護	・目標指標に介護人材の確保に関する指標を加えてはどうか。例えば、外国人介護人材の人数やそのうちの介護福祉士資格取得者数、さらには、処遇改善やICT化・DX化、介護助手など、数値化が検討できる切り口は様々あると思う。
23	安心5 (1) 障がい者	・主な取組②に「おおいた共同受注センターによる販路・受注拡大」があるが、就労継続支援の国内最大級のBPOプラットフォームであるVALT JAPANとの提携を検討してはどうか。
24	安心6 (1) 人権	・AIの進展はめざましい。この10年、AIによる人権侵害には、気をつけていかなければならない。
25	安心6 (2) 地域共生社会	・外国籍住民は、情報やサービスにアクセスしづらく、孤立しがちになるという課題がある。そのため、主な取組③の「地域に暮らす住民の孤立化を防ぐ居場所（サードプレイス）づくりの推進」の文頭に「外国人住民を含む」と追記してほしい。
26	安心6 (2) 地域共生社会	・主な取組②の「県域で活動する保健福祉関係団体の拠点の整備」について、福祉を取り巻く課題がますます複雑・多様化する中で、様々な相談ができたり、利活用できるような拠点ができるとよい。期待している。
27	安心6 (2) 地域共生社会	・目標指標について、住民同士がどれだけ支え合って暮らしているかを測定していくことも大事だと思うので、現時点で掲出している「包括的な支援体制の整備」という公助の面の指標に加えて、「共助の面からの指標」も盛り込むとよいと思う。
28	安心6 (3) NPO	・地域課題が多様化し、NPO同士あるいは企業も含めた連携が重要になる中で、主な取組に記載されている協働コーディネーターの果たす役割は大きくなっている。取組内容が「派遣」のみになっているが「育成」も加えてはどうか。

29	安心6 (3) NPO	・10年後の目指す姿について、災害時においては、NPOと災害ボランティアセンターとの連携だけでなく、NPOと行政との連携も重要になるため、その点を明記してほしい。
30	安心7 (2) 動物 愛護	・災害時において、飼い主はペットと一緒に避難をしたいと願っている。同行避難ではなく同伴避難が求められているので、記載を検討してもらいたい。
31	安心7 (3) 食育	・健康寿命延伸のためにも、県民一人ひとりが食を正しく選択することが大事。食品衛生や食品表示、リスクコミュニケーションなど、食育の内容に広がりを持たせてほしい。
32	安心7 (3) 食育	・また、食育の実施対象についても、学校だけでなく事業所や施設も加えることで、対象にも広がりを持たせるようにしてほしい。